

(別紙様式)

(A3判横)

# 令和7年度学校自己評価システムシート (県立三郷北高等学校)

目指す学校像	確かな学力のもと、進路指導・生徒指導・部活動指導を3本の柱に、地域に根ざした、生徒の青春の夢実現を目指す学校
--------	--

重点目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>学習習慣の確立と授業改善による学力向上を図り、進路希望を実現させる。</li> <li>集団活動とおして共生社会の実現を目指し、規範意識を持った社会に信頼される人材を育成する。</li> <li>インクルーシブ教育を充実させ、分校とともに地域に開かれた学校づくりをさらに推進する。</li> </ol>
------	--

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。  
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	名
	生徒	名
	事務局(教職員)	名

学 校 自 己 評 価						
年 度 目 標				5年度評価(月日現在)		
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度
1	授業におけるICT機器の活用はだ いぶ浸透してきている。今年度か ら全生徒がタブレットを所持す ることとなるのでより主体的対話 的で深い学びを実現させるため にさらに効果的な活用方法を検 討していく必要がある。さらに、 希望進路の実現に向けて、進学 補習の充実、欠点者の減少や家 庭学習時間を増加させる取組み を行っていきたい。	授業改善のための ICT機器の活用方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>授業担当者が効果的にICT機器を活用し、主体的対話的で深い学びを実践する。</li> <li>生徒が持っているタブレット端末を効果的に活用し、生徒の学習意欲を向上させる。</li> <li>生徒の学力向上につながるアプリ等の活用を進める。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>担当者が必要に応じてGoogleWor k spaceでのやり取りや、プレゼン テーション資料の作成等の実践に取り 組むことができたか。</li> <li>タブレット端末を活用した双方向 の授業実践に取り組むことができたか。</li> <li>授業の実践において、効果的なア プリの活用を教職員で共有する機会を設 定し、教科ごとに効果的にアプリの活 用を進めることができたか。</li> </ol>		
		進学補習の充実度、 欠点保有者の減少、 家庭学習時間の増 加、部活動との両 立、希望進路の実 現度	<ol style="list-style-type: none"> <li>希望進路を実現させるための補習等を実施する。</li> <li>定期テスト実施前に学年、教科と連携して指名補習を行い、欠点を減少させる。</li> <li>スタディアプリ等を活用し、課題等の配信を効果的に家庭学習時間を増加させる。</li> <li>3年間部活動を続けさせて両立を図る。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>進学補習を受講した生徒が昨年度比5%程度増加したか。</li> <li>スタディアプリの動画配信時間が増加したか。(昨年度比)</li> <li>スタディアプリの回答に対し、家庭学習の時間が増加したか。(昨年度比)</li> <li>部活動とおし、規範意識や継続力を身につけることができたか。</li> </ol>		
		教職員の業務の効 率化とスリム化によ るスキルと意欲の向 上	<ol style="list-style-type: none"> <li>校務DX・TXを進め学校運営の効 率化を図るとともに教育の質の向上を 高める。</li> <li>教員のスキルを向上のための研修会 を実施する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>スケジュール管理や成績処理等につ いて校務のスリム化を図ることができ たか。</li> <li>教員向け研修会を随時開催し、授業 支援ソフト、デジタル採点等の活用を 進めることができたか。</li> </ol>		
2	依然として遅刻が多く、遅刻を減 らして時間を大切に する意識や学校生 活への意欲を高め る意識が必要であ る。また、通学時 の交通マナーや校 外での行動につい て苦情等があり、 規範意識の醸成や 何事にも主体的に 取り組むための自 己管理能力の育成 が必要である。 三郷北分校とさら に積極的に交流を 進め校内での共 生社会の実現に向 けて取り組んでい く。	遅刻者の減少、外部 からの苦情の減少、 規範意識の向上、自 己管理能力の向上	<ol style="list-style-type: none"> <li>遅刻者を減少させて自己管理能力の 向上と時間を守る意識を高める。</li> <li>外部からの苦情を減少させて、交通 マナーの向上と規範意識の向上を図 る。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>遅刻者への事後指導を学年ごと行 い、遅刻件数年間1500件未満とな ったか。</li> <li>交通安全講話を実施し、交通マナ ーについての地域市民からの通報が 減少することができたか。(昨年度比)</li> </ol>		
		共生社会の実現に向 けた取組み、生徒 の主体的な取組み	<ol style="list-style-type: none"> <li>三郷北分校との共存共栄を目指し、 合同の学校行事、人権教育や講演会 を実施する。</li> <li>生徒が主体的に取組む委員会を活 性化し、生徒の自主性を重んじた学 校行事を実施する。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>三郷北分校との生徒同士の関わり を増やし、行事等を成功させること ができたか。</li> <li>全校集会等(年8回)、学年集会(年 4回)及びUHRでの講演や講話を 実施できたか。</li> </ol>		
3	インクルーシブ教育を充実させる ことで、三郷北分校との交流を本 校の魅力の一つとして定着させて いきたい。また、ホームページ の更新だけでなく、部活動、各教科 や学校行事等で地域や保護者に本 校の魅力を発信し、開かれた学校 を目指す必要がある。その結果、 地元の中学生の入学者が多い学校 として、生徒募集につなげてい く。	インクルーシブ教育 の実施と教職員への 研修の実施、三郷北 分校との交流の充 実度、本校への志 願者や保護者の増 加	<ol style="list-style-type: none"> <li>教職員への特別支援教育の理解を深 化させ、よりきめ細やかな生徒への 対応をおこなう。</li> <li>三郷北分校との交流をさらに活 性化させる。</li> <li>本校への志望者を増加させる。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>三郷北分校職員との合同研修会を 年間2回実施し、教職員同士の関 わりを増やすことで、特別支援 教育への理解を推進することが できたか。</li> <li>三郷北分校と合同で実施する 行事を計画し、実施し活性化 を図ることができたか。</li> <li>学校説明会等の広報行事を通 じて中学生・保護者のアンケート 結果で評価する。</li> </ol>		
		地域や地元小中 学校との連携、学 校説明会の開催、 学校の情報発信 の頻度、学校の 行事等の保護者 への開放	<ol style="list-style-type: none"> <li>部活動における地域との連携、 地域への生涯学習の提供や学 校公開等による地域連携を実 践する。</li> <li>効果的に効果的な情報発信を行 い、本校の魅力をアピールす る。</li> <li>PTA、後援会と連携を図りなが ら学校の情報公開を進める。</li> </ol>	<ol style="list-style-type: none"> <li>生徒の活動を活性化するために、 外部施設使用について地域と 連携するとともに、地域での 活動する機会を設けることが できたか。</li> <li>ホームページのリニューアル等 を進め、年間300回の更新を行 うことができたか。</li> <li>行事を中心に、PTA・後援会 と密に連携し、保護者の来校 機会を設定できたか。</li> </ol>		

学 校 関 係 者 評 価		
実施日 令和 年 月 日		
学校関係者からの意見・要望・評価等		